

ヴィジュアルアート

- 世界でこの名を知らぬ人はいない日本が誇るアーティスト 草間彌生(1929年生)をはじめ、世界各国から気鋭のアーティストたちが集結する。
- 映像、インスタレーション作品など形態を問わずさまざまな作品を見ることが出来るが、そのほとんどが今回のための新作だ。

空間を操り、演出するアーティストたち 既成概念を覆す作品群の事例紹介

- ヤン・フードン 楊福東(中国)
- 複数のスクリーンからなる彼の映像作品は時間と空間の軸を同時にさまざまな方向へ移動させる。今回は9セットの35ミリフィルム映写機から9枚のスクリーンに映しだされる映像インスタレーションを展開。

松井紫朗

- メビウスの輪やクラインの壺のように、空間の内／外の境界を超えていくようなダイナミックなインスタレーション作品を国内外で発表してきた。愛知芸術文化センターに登場するグリーンの巨大なバルーン作品は、建物の内側と外側を行き来するといった体験ができる。

池田亮司

- 岐阜県出身の池田は現在はパリを拠点に国際的に活躍するアーティストだ。
- 音と光を用いたスペクタクルな作品は、9月24日、25日、名古屋城二の丸公園に出現。64基のサーチライトを垂直に空に向け照射、その光は成層圏まで届く。
- 名古屋市内だけでなく、かなりの広域からこの光のタワーは確認されるだろう。

長者町では山車を！

- 長者町には30代前半の若手アーティストを中心に現地制作などを経て、さまざまな作品を展開する。
- 消失して以来、長者町地区には山車がなかったが今年のプレイベントでは地元の方たちから布地を提供していただき「やわらかい山車」を作ったKOSUGE1-16。彼らが本格的な山車を彼らならではのアーティストティックな趣向で制作中。

この場所だから...

- 海外や県外のアーティストたちの多くは、調査を繰り返し、場所性を重んじた作品を作ろうと試みている。
- 篠島での調査を作品に反映させようとする島袋道浩(ベルリン在住)ほか、場所や空間といったものへの意識がどのように視覚化されるのかも必見。

映像プログラム

- 映画が誕生して115年、「映像の第二世紀に向けて」をテーマに世界各国の約30作品が上映される。
- アピチャポン・ウィラーセタクン(タイ)
- アリアンヌ・ミシェル(フランス)
- 辻直之(日本) ほか

キッズトリエンナーレ

- 次代を担う子どもたちが自由に創作ができる「デンスタジオ」が愛知芸術文化センター8階に。アーティストたちと一緒に創作をする機会などが提供される。

現代美術展企画コンペ

- 2つのコンペが実施されたが全体で国内外から500を超える応募があり、そこから15の企画が選ばれた。
- 高齢者問題に焦点を当てた江幡京子の企画。地元の中川運河をテーマにした田中由紀子の企画。使用済みの電球を集めて巨大な灯りを作る北川貴好の企画。ほか、ブラジルで生まれ育った上西エリカは都市の再構築をテーマにした企画など。

「キュレーター」とは？！

展覧会の企画運営に携わる職を指す。

国際的に活動する外国人キュレーターを含む
6人のキュレーターが主にこの祭典を企画し、
12人のアソシエイトキュレーター、アシスタント
キュレーター、そのほか沢山のエキスパート
によって催しが支えられている。